

公立病院改革プランの主な内容

都道府県名		島根県						
団体名		島根県		松江市	出雲市	大田市	安来市	
病院名		県立中央病院	県立こころの医療センター	松江市立病院	出雲市立総合医療センター	大田市立病院	安来市立病院	
公立病院改革プラン策定日 (※策定予定の場合は、「H21年〇月予定」と記載)		平成21年3月		平成21年3月16日	平成21年3月2日	平成21年3月12日	平成20年11月14日	
経営効率化に係る計画	経常収支黒字化目標年度	平成28年度	平成36年度	平成24年度	平成29年度	平成25年度	平成22年度	
	平成20年度財務に係る経営指標数値(実績)	経常収支比率(%)	97.2	91.0	89.2	83.7	87.0	97.9
	職員給与費比率(%)	41.7	75.1	55.7	59.3	54.6	56.0	
	病床利用率(%)	88.4	86.8	83.0	73.8	61.9	88.1	
	財務に係る数値目標(平成23年度)	経常収支比率(%)	94.3	90.0	98.4	88.4	96.4	101.7
	職員給与費比率(%)	45.2	77.9	54.3	52.9	49.1	54.6	
病床利用率(%)	90.0	91.4	85.1	84.8	80.5	90.0		
再編・ネットワーク化に係る計画	再編・ネットワーク化の結論の取りまとめ(予定)時期	平成21年3月		平成21年3月取りまとめ済み	平成21年3月取りまとめ済み	平成21年3月取りまとめ済み	平成20年11月14日取りまとめ済み	
	再編・ネットワーク化の枠組みまで合意している場合は○を記入(既に再編・ネットワーク化を実施している場合は◎を記入)(以下①から③まで記入)	○	○	◎	◎	◎	◎	
	①再編・ネットワーク化の具体的な内容	①県全域を対象とする高度・特殊医療、②救命救急センター、総合周産期母子医療センター等の政策医療、③地域医療の積極的支援、上記3点の役割を適切に果たすため、県内各医療機関と一層の連携強化を図る。	県の精神医療の基幹的病院としての病院では対応困難な重篤な症例の積極的な受入れなどを行っており、県内の精神科医療機関との連携、病診連携をより一層推進する。	救急等4疾病5事業を担っており、がん拠点病院、災害拠点病院、また圏域唯一の緩和ケア病床を有するなど地域の中核病院として、松江市のみならず隣接する雲南圏域からの救急患者等の受け入れもを行っている。今後もその機能維持を図っていく。	島根県保健医療計画(出雲圏域版)との整合を図り、4疾病のうたげ-セッションの機能を担うため、同病棟の設置を行う。また、[がん対策]については、がん診断における最新の医療機器であるPET-CTを導入し、島根大学付属病院、県立中央病院との共同利用を行い連携強化を行う予定である。	島根県保健医療計画における3疾病(がん、脳卒中、糖尿病)5事業への対応医療機関としての役割を果たすとともに、一般急性期医療の提供を中心として地域の医療・介護・福祉機関との連携強化を図る。特に、済生会江津総合病院との医療圏域を越えた連携ネットワークを構築する。	県内の公立病院は、離島や中山間地に立地し隣接する病院との距離が離れており、代替する病院がない状況である。また、都市部では、それぞれが地域における中核的な病院として機能しており、地域の医療機関等と密接な連携体制のもとに地域医療を担っていることから、公立病院改革ガイドラインの趣旨に沿った取り組みが既に行なわれており、さらなる再編統合を図る必要はない。また、ネットワーク化については、島根県保健医療計画に基づき、地域連携クリティカルパスの導入などを通じ、地域の医療機関や福祉施設等と連携を深め、切れ目のない保健・医療・福祉サービスを提供していくよう努める必要がある。	
	②再編・ネットワーク化に係る関係地方公共団体がある場合はその名称				島根県(中央病院)、国(島根大学医学部附属病院)	江津市、美郷町、川本町、邑南町		
	③平成22年3月末までの上記再編・ネットワーク化の進捗状況(上記計画のうち平成22年3月末までの実施部分)	◆県防衛ヘリ運用による救急患者搬送支援システムの県西部地域への拡大(H22.3月～)	◆精神科救急医療機能の維持・強化 ◆救命救急センター、総合周産期母子医療センター-機能の維持・充実、◆がん治療機能の充実、◆代診医療連携の実施、◆福岡圏域診療連携の実施、◆医療用ヘリコプター導入費用検討会による検討、◆県地域医療連携委員会を活用した連携推進	◆精神科救急医療機能の維持・強化 ◆県内の重篤な患者の積極的受入れ ◆代診医療連携の実施 ◆精神科医療連携検討会による検討 ◆精神科科医局基金を活用した連携促進	医療不足等により近隣病院が診療の休止や縮小を余儀なくされる状況の中、県が定めた「公立病院改革ガイドライン」にかかわる「公立病院改革」への転換を行った。その後、リハビリスタッフの増員を行いつつある。再編・ネットワーク化に対する基本的考え方は「中核病院」におけるPET-CTについては、平成22年度中の稼働を予定している。	【圏域中対策】における回復期リハビリテーション機能については、平成20年度において産業廃棄物、介護老人保健施設を廃止し、回復期リハビリテーション病棟(32床)への転換を行った。その後、リハビリスタッフの増員を行いつつある。再編・ネットワーク化に対する基本的考え方は「中核病院」におけるPET-CTについては、平成22年度中の稼働を予定している。	江津済生会総合病院において、当院常設医の研修(消化器)受入を実施。	県が定めた「公立病院改革ガイドライン」にかかわる「再編・ネットワーク化に対する基本的考え方」に基づき、安来市内において地域連携クリティカルパスを作成し連携の推進を図っている。
	④再編・ネットワーク化の検討体制(協議機関の名称等)							
⑤再編・ネットワーク化検討の方向性								
経営形態の現況 平成22年3月末現在(一部適用、全部適用、地方独法、指定管理者等の区分を記入)	全部適用		全部適用	全部適用	一部適用	一部適用	全部適用	
経営形態の見直し(予定)時期			平成21年度に検証済み(平成24年度に再検証)	平成22年度	平成21年度から協議・検討を行い平成23年度に体制整備、平成24年度に導入の方向で検討する。	平成23年8月		
経営形態の見直し(※実施済みの場合)●、決定済みの場合は○、検討中の場合は◎、検討対象範囲にすべて○を記入)	公営企業法全部適用	●	●	●	○	○	●	
地方独立行政法人					○			
指定管理者制度								
民間譲渡								
診療所化								
老健施設など、医療機関以外の事業形態への移行								

公立病院改革プランの主な内容

都道府県名		島根県							
団体名		奥出雲町	飯南町	津和野町	公立雲南総合病院組合	邑智郡公立病院組合	隠岐広域連合		
病院名		町立奥出雲病院	町立飯南病院	津和野共存病院	公立雲南総合病院	公立邑智病院	連立隠岐島前病院	連立隠岐病院	
経営効率化に係る計画	公立病院改革プラン策定日 (※策定予定の場合は、「H21年〇月予定」と記載)	平成21年3月18日	平成21年3月24日	平成21年3月18日	平成21年3月27日	平成21年3月23日	平成21年3月3日		
	經常収支黒字化目標年度	平成22年度	平成24年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成30年度	平成23年度	
	平成20年度財務に係る経営指標数値(実績)	經常収支比率(%) 98.6 職員給与費比率(%) 86.8 病床利用率(%) 87.8	98.7 55.7 58.5	113.5 73.9	95.1 50.9 68.5	95.4 71.6 73.6	99.1 55.5 96.0	96.7 64.2 69.0	
	財務に係る数値目標(平成23年度)	經常収支比率(%) 100.7 職員給与費比率(%) 65.8 病床利用率(%) 87.6	99.3 56.2 70.9	101.4 56.2 90.0	100.0 47.6 71.0	102.2 63.1 86.7	97.7 70.8 98.2	100.2 71.2 72.1	
	再編・ネットワーク化の結算の取りまとめ(予定)時期	平成21年1月27日取りまとめ済み	平成21年3月5日取りまとめ済み	平成21年3月18日取りまとめ済み	平成21年1月27日	平成21年1月19日の公立邑智病院改革プラン策定委員会で取りまとめ済み	平成21年3月3日		
	再編・ネットワーク化に係る計画	再編・ネットワーク化の枠組みまで合意している場合は○を記入(既に再編・ネットワーク化を実施している場合は◎を記入)(以下①から⑤まで記入)	◎	◎	◎	◎	◎	○	
①再編・ネットワーク化の具体的な内容	病院歯科を廃止し、民間歯科診療所に再編。圏域の4病院で地域の医療を支えるため、雲南病院をはじめとする雲南圏域内の医療機関との連携を図るとともに、救急、がん、脳卒中等については、圏域を超えて連携を図る。	雲南病院をはじめとする雲南圏域内の医療機関との連携を図る。雲南病院から医師の派遣を受けている。また、雲南市の診療所との間で、飯南病院の医師が診療所に出かけ診療を行い、かわりに診療所の医師が飯南病院で診療する病診連携を行っている。	平成19年11月に津和野共存病院と日原共存病院を再編し、入院機能を津和野に集約し、日原を無料診療所化するなどの改革を行い、経営の効率化を図った。	雲南地域の中核病院として、飯南病院への医師派遣を行うなど、ネットワーク化を図っている。精神科については松江圏域の病院等から派遣を受けている。高度な医療を必要とする疾病などの治療は急性期と回復期医療について、雲南圏域の中心的役割を担いつつ3次医療機関との連携を図っている。引き続き高度先進医療機関及び地域医療機関との連携を強化していく。	大田圏域の現状を踏まえそれぞれの関係医療機関の役割分担を明確にし、圏域内および圏域外の医療機関相互の連携を図る。特に、邑智郡内における地域医療拠点病院として、保健・医療・福祉の地域連携推進事務局を立ち上げ、地域連携ハンドブックを編集し、近隣医療機関との連携強化を進める。	隠岐医療圏での病院の統廃合は行わない。 電子カルテシステムの整備により地域連携がITインフラの導入を図り圏域内の診療所等とのネットワークを図る。 遠隔画像システムなどのICTの活用やヘリコプターによる救急搬送システムなどにより本土の医療機関と圏域を超えたネットワーク化を図っており、今後一層の強化に努める。			
②再編・ネットワーク化に係る関係地方公共団体がある場合はその名称	公立雲南総合病院組合	公立雲南総合病院組合	益田市、吉賀町、萩市	雲南圏域地域医療関係者連絡会(雲南市、奥出雲町、飯南町)	大田市、川本町、美郷町、邑南町				
③平成22年3月末までの上記再編・ネットワーク化の進捗状況(上記計画のうち平成22年3月末までの実施部分)	県が定めた「公立病院改革ガイドライン」にかかる再編・ネットワーク化に対する基本的考え方に基づき、町内各診療所・福祉施設・消防署救急隊等が定期的に集まり「地域医療推進会議」を開催。地域一体となった急性期～慢性期医療の連携及び救急医療連携の要請など地域の医療レベル向上のため研修を重ねている。また、医療全てが圏域で完結できる限り高く、必要不可欠である高度医療上の紹介・連絡先として連携がさらに円滑に進むよう連携レベルで関係機関を連携しているところである。	雲南病院から医師の派遣を受けている。また、雲南市の診療所との間で相互派遣をして病診連携を図っている。	上記①再編・ネットワーク化の具体的な内容のとおり	1次医療機関(診療所)との連携強化として、医師会との連携強化を図っているが、医師会の先生方によるインフラが専門外来への支援を頂いた。	県が定めた「公立病院改革ガイドライン」にかかる再編・ネットワーク化に対する基本的考え方に基づき、邑智郡内における地域医療推進会議として地域連携推進事務局を立ち上げ、近隣医療機関との連携強化を進めている。	遠隔画像システムなどのICTの活用やヘリコプターによる救急搬送システムなどにより本土の医療機関と圏域を超えたネットワーク化			
④再編・ネットワーク化を検討中の場合	検討中の場合は○を記入(以下④及び⑤を記入)								
④再編・ネットワーク化の検討体制(協議機関の名称等)									
⑤再編・ネットワーク化検討の方向性									
経営形態見直しに係る計画	経営形態の現況 平成22年3月末現在(一部適用、全部適用、地方独法、指定管理者等の区分を記入)	一部適用	一部適用	指定管理者制度	一部適用	一部適用	一部適用	一部適用	
	経営形態の見直し(予定)時期	平成20年5月 済(平成23年度に再度、検討計画)	平成25年3月	平成25年度	平成23年度	平成24年度	平成26年度		
	経営形態の見直しの方向性(※実施の場合) ● 決定済みの場合は◎	公営企業法全部適用	○		◎		○	○	
	地方独立行政法人					○			
	指定管理者制度			●		○			
民間譲渡	◎ 歯科部門				○				
診療所化					○				
老健施設など、医療機関以外の事業形態への移行	○(療養介護医療床)=介護保険床			○		○			